



鹿田小だより

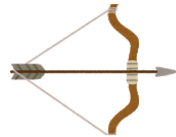


元気いっぱい 勉強こつこつ 親切ハートの
岡山市立鹿田小学校



令和元年度 第15号 1月31日

光陰矢の如し



「1月は往ぬる(行く), 2月は逃げる, 3月は去る」と言いますが, 令和2年が始まってもう1か月が過ぎました。6年生は卒業まで, 今日でちょうどあと30日。1日1日がまるで宝物のように感じられているのではないのでしょうか。「光陰矢の如し」とは、『月日の経つのは早いものだ。』という意味ですが, 矢を放つと戻ってこないことから, 『月日は戻ってこない。だから大切に過ごさなさい。』という戒めの意味もあるのだそうです。6年生だけでなく, どの学年も, 今の学年やクラスで過ごす日々は, もう二度と戻ってはきません。毎日を大切に過ごしてほしいです。



さて, そんな6年生のことです。3学期始業式の次の日, 夜から朝方にかけて激しい雨と風で, 渡り廊下全体に水たまりができていたのですが, 登校してきた6年生が雑巾とバケツを使って, 渡り廊下の水をきれいにふき取ってくれました。また, それを見た5年生の有志も駆けつけてくれました。これぞ, まさに「SHIKATA PRIDE」。この姿に鹿田小学校の児童としての誇りを感じました。多くの先輩たちから受け取ったバトンを, 後輩へと立派に引き継いでくれています。素晴らしい子どもたちです。

避難訓練 (休憩時間) 1/9

職員室から出火したという想定で避難訓練を行いました。今回は, 休憩時間中の避難訓練だったため, 担任が誘導するのではなく, 多くの児童は自分たちだけで運動場まで避難しました。避難するときには大切なことは「お・は・し・も」で, 「おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない」です。少し声が聞こえたのは残念でしたが, 口や鼻を手やハンカチで押さえながら避難している児童が多く, 大きな混乱もなくスムーズに避難できていてよかったです。



避難するときには, 出火場所に近づかないように気を付けなければいけません。そのためには出火場所をしっかりと確認すること, つまり, 放送をよく聞くことがとても大切です。今回のように自分たちで判断して避難するときには特にそうです。「自分の命は自分で守る」ためにも, 放送は「黙って最後まで聞く」ことを習慣化していきたいと思えます。

非行防止教室 1/10

西警察署の方にお越しいただき, 1・2年生が「非行防止教室」を行いました。家・学校・遊びにルールがあるように社会や町にも「人のものを取らない。」「悪口を言ったり, 人に命令したりしない。」などルールがあることを聞きました。悪いことをすると, 警察に捕まることがあること, 小さい頃は許されても, 大人になると許してもらえないことなど, 少しドキドキしながら真剣に聞くことができました。



ウィンターコンサート 1/26

今年で第7回となる岡山県小学校管楽器教育連盟主催の「ウィンターコンサート」が岡山市民会館で開催され, ブラスバンビーが参加しました。演奏曲は, 「涙そうそう」と「ティダヌファ」。「ティダヌファ」は沖縄の方言で, 「太陽の子」という意味なのだそうです。沖縄の暖かい風を感じる, とても素敵な演奏でした。2/22に鹿田小体育館で行うスプリングコンサートが楽しみです。



「景観まちづくり賞」を受賞!

2019年度「景観まちづくり賞」に鹿田小学校が選ばれました。今回は本校を含め6件が選ばれました。「中庭から見える渡り廊下の柱を樹木に見立て, 下層から上層階にかけて色を緑から赤に変えて紅葉していく様子を表現している」のが受賞理由のようです。校舎をいつまでも美しく保てるよう, これからもみんなで力を合わせて, 掃除をしたり整備をしたりしていきたいと思えます。(1/18山陽新聞に掲載)



6年租税教室 1/29

西法人会の方から, 日本の税の仕組みや私たちの身の回りで税金がどのように使われているかなどについてお話を聞きました。小学生が6年間学校に通うために, 504万円も税金が使われていると聞き, 驚きました。



学校長のつぶやき ~人間関係力~

先日, 電車に乗りました。車内は満員で, 通路にもたくさんの方が立っていました。家族にメールで迎えの依頼をした後, ふと周りを見渡すと, 座っている人も立っている人も, ほぼ100%の人が, スマートホンに見入っています。一時も手放すことができないんだと思わず笑ってしまいました。大人でさえこの状態なら, 子どもはなおさらです。1/21山陽新聞の朝刊に「ゲーム1日60分まで」という記事が載っていました。これは香川県議会の委員会が『コンピューターゲームの利用時間を1日60分までとするルールを順守させるよう, 保護者に努力義務を課す条例素案をまとめた』というもので, 子どもがインターネットやゲーム依存症になるのを防ぐねらいがあります。

ゲームの弊害は, ゲーム依存症だけではなく, 子どもの遊び環境にも影響を及ぼしています。1/18に行われたPTA講演会で講師の榎本博明氏は, 「異年齢での集団遊びが少なくなり, 気心の知れた数人の同級生と遊ぶだけの子どもが増えている」と話されました。そのため, 人間関係力が自然に身につく時代ではなくなり, 人とかわる力が欠如している若者が増えていて, 「友達はできたが, この先うまくやっていけるか不安だ。」とか, 「仕事はしたい。でも人と付き合うのが怖い。」などという相談を学生から受けることが増えてきたそうです。これは, 幼いころからの人とかわる体験の乏しさからきていて, 榎本氏は「人間関係の早期教育が必要」だとおっしゃっていました。では, どうすれば子どもの人間関係力を高めることができるのでしょうか。そのためにはまず, 親自身がコミュニケーションを楽しむこと, 家族ぐるみでコミュニケーションをとる機会を作り, 人間関係を積極的に楽しむ姿を子どもに見せること(モデリング)が大切なのだそうです。私自身も4人の子どもを育てました。自分ではできていたのだろうかと不安になりますが, 「時すでに遅し」です……

今の情報社会の中で, スマートホンのない生活は考えられないかもしれませんが, 子どもたちに人間関係力を身に付けさせるためにも, その使い方を大人がしっかり教えていかなければなりませんね。